

## < 消化器疾患の内視鏡診療の現状に関する後ろ向きの検討 >

高齢社会を迎え、消化器疾患の診療において、内視鏡検査・治療は低侵襲で優れた治療成績から重要な役割を果たしています。さらに、以前は外科手術や血管内治療が必要であった病気も、低侵襲である内視鏡手技を応用して様々な治療法が開発され、普及しています。一方で、新たな治療方法は、その有効性が示されているものの、出血、穿孔、膵炎、播種といった頻度が一定数報告されております。今後、偶発症の減少、治療成績の向上を目指すことは非常に重要なことと考えます。

そこで、今回、消化器疾患の内視鏡診療の現状を把握する研究を行うこととなりました。具体的には 2008 年 1 月から 2024 年 12 月までに当科を受診し、消化器疾患に対して内視鏡診療をおこなった患者さんの年齢、性別、BMI、生活歴(飲酒・喫煙)、現病歴、既往歴、基礎疾患、血液検査データ、画像検査(上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、EUS、ERCP、カプセル内視鏡、バルーン内視鏡US、CT、MRI、PET)、生検・手術標本の病理所見、内視鏡治療の成績、偶発症、外科治療や IVR 治療への移行割合、その治療成績、その後の経過に関して診療記録より調査を行い、現状の治療内容の有用性や問題点を後ろ向きに検討させていただくこととなりました。研究期間は 2025 年 12 月 31 日までです。

この研究は既存情報を使った研究であり、対象者に新たな受診や検査等の負担は一切生じませんが、この研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌に発表する可能性があります。ただし、成果を公表する場合には、臨床データを使用させて頂いた方のプライバシーに慎重に配慮します。個人を特定できる情報が公表されることはありません。なお、本研究資金に関連した開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。この研究は奈良県立医科大学 医の倫理審査委員会の承認を受け、学長の許可を得ております。これらの研究において、ご自身の提供された情報等について患者様またはご家族が問い合わせたい、もしくは利用を拒否したいなどの場合には下記にご連絡ください。尚、情報の利用を拒否された場合でも、これまで通りの診療を継続して行いますので、患者さんに不利益は全く生じません。

奈良県立医科大学 消化器内科学講座

TEL 0744-22-3051 (内線 3415)

担当者 藤永 幸久